



令和3年5月20日(木) No.7

おもてなし

「おもてなし」

東京でオリンピックが開かれるようにと誘致の演説で有名になった言葉です。おもてなしの心の大切さを再認識した人も多かったと思います。この言葉についてこんなことも考えられると話している人がいました。

それは、心を込めてもてなすことは大切ですが、何でもしてあげるといことはおかしいということです。今の子どもたちに対しての警告ですが、なんでも「してもらって当たり前」という風潮が見られます。かまいすぎと言えるかもしれません。

それは「あれしなさい」「これしなさい」「これはしてはだめ」「あれはしてはだめ」と何事にも指示をされて行動するようになってしまい、自分で考えて行動しなくなり、挙句の果ては自分の行動も人のせいにしてしまうということです。

そんな一例を話していました。

朝、子どもを起こしにいきます。「起きなさい」と言うと「もう少し」と文句を言う。時間ギリギリになって起こしに行くと「どうしてもっと早く起こしてくれなかったのだ」と文句を言う。

子どもの言いなりになりながら、文句を言う子を育てていることになり、人のせいにすることを教えてしまっていることになっています。お母さんから「この子はわがままで」と聞くことがあります。甘える環境があるということはとても大切なことだと思います。しかし、好き放題させておいて「わがままで」と困っていると思っていることはないでしょうか。

おもてなしと言うことはとても大切ですが、子育ての中で子どもたちにとって何が大切かと言うことを考えないと、自分で考え自分でやろうとする気持ちを奪うことになりかねません。

話を聞きながらそんなことを考えました。……あくまでも園長のつぶやきです。

また、家族を思いやり、自分で考える力を身に付けていくのに言葉は必要ではない。親の真剣な生き方をしている姿を見て、感じ取り、子ども自身が自分を見つめて成長する大切さを感じたのは次のことでした。

お家が魚屋さんであり、食堂もしていたので、小さい頃のおやつは骨せんべいであったといひます。ある日友達のお家に遊びに行ったら、おやつの方にケーキが出され感動したそうです。今度は友達が遊びに来た時お母さんがいつものように骨せんべいをおやつに出したそうです。後で、お父さんにおやつが骨せんべいばかりだということを話したらお父さんは悲しそうな顔をして黙っていたそうです。それを見て二度とおやつの話はしなかったといひます。先日テレビを見ているとタレントの方がそんな話をしていました。

子どもたちが育っていく要素はいっぱいころがっているように思ひます。

文責大村